



Obihiro Aoi Gakuen Information

学校法人 帯広葵学園

学園通信

◆2025年（令和7年）7月20日発行

◆Vol.92

故きを温ねて、新しきを知る
～帯広葵学園のあしあと～

「とかち童謡まつり」を振り返って

ーアンパンマンの使命とはー

学校法人帯広葵学園 理事長 上野敏郎

第15回を数える「とかち童謡まつり」は帯広会場も音更会場も無事終了しました。ご苦労さまでした。

さて、そもそもこの童謡まつりは、2008（平成20）年に帯広動物園で始めた「動物園で童謡を歌おう」がきっかけになっています。その3年後、つまり2011（平成23）年に「第1回とかち童謡まつり」が会場を帯広市民文化ホールに移して始まったのでした。

この童謡まつり開催のきっかけは、言うまでもなく帯広地方に伝わる子守唄「赤い山青い山白い山」にあります。1907（明治40）年に東京で発行された本「日本民謡全集」に「十勝国の子守唄」として「ねんねの寝た間に何しよいの」が紹介されます。もちろん、この子守唄に曲名などはありません。その後、この子守唄が1918（大正7）年に発行された子ども向けの雑誌「赤い鳥」の創刊号に「ねんねの寝た間に」の題名で北海道河西地方の子守唄として掲載されるのです。ここでも、「赤い山青い山白い山」の文字は出てきません。つまり、いつから「ねんねの寝た間に」から「赤い山青い山白い山」に題名が変わったのかは今のところ不明なのです。

ところで、今さらですが童謡と子守唄のちがいはどこにあるかを調べてみました。

童謡とは、明治時代以降に創作された子どもの歌であり、作詞者、作曲者が分かっている、なおかつ、音楽的にも整っておりピアノ伴奏なども想定されたものだそうです。では子守唄とはなれば、それは赤ちゃんを寝かしつけるための歌であり静かで単調なメロディで作者不明が多いとなります。伝承者も母親や保育者がほとんどです。

このように考えてみると、1897（明治30）年代に十勝に入ってきた子守唄「ねんねの寝た間に」は、開拓入植者の母親からの伝承歌として十勝の大地に種まかれ、1962（昭和37）年発行の岩波文庫「わらべうたー日本の伝承童謡」に楽譜付きで掲載されたあたりから伝承的、口伝えの子守唄の色が薄くなり、音楽的な整いを強くし「童謡」の色を濃くし始めたと考えられるべきかと思うのです。

いずれにしても、十勝・帯広の語り部としての「赤い山青い山白い山」を葵学園が歌い続けることに変わりはありません。来年の「とかち童謡まつり」は今年以上に楽しいものにししましょう。



学校法人

帯広葵学園

〒080-0022

帯広市西12条南17丁目3 難波ビル2F

TEL 0155-23-7604 / FAX 0155-67-5778

URL <https://www.obihiraaoi.ed.jp/>

帯広の森幼稚園



012おびもり



つづきが丘幼稚園



012 青い鳥保育園



緑陽台認定こども園



柳町認定こども園



駒場認定こども園



あおいキッズランド



東士狩保育所



あおいとり